

平成24年5月

ご寄付いただきました全国の皆様へ

岩手県吹奏楽連盟
会長 高橋和雄
理事長 佐藤清一

この度の大震災から1年が過ぎ、新たな年の活動も始まりました。振り返りますと、1年前の5月は、あまりの被害の大きさに復旧作業も進まず、明日のこともわからないそんな不安な状況にありました。多くの学校は避難所となり、今年の活動は本当にできるかと思わざるを得ない状況でした。特に、吹奏楽コンクール岩手県大会沿岸地区大会で例年使用しているホールが2カ所とも津波で浸水し使用不能になったことで、開催に向けて関係方面と協議した日々が思い出されます。

この間、全日本吹奏楽連盟にご寄付いただいた皆様方や、楽器を提供していただいた皆様方、復旧・復興が進まない中でも少しでも日常を取り戻すべく生徒・児童の吹奏楽活動の援助をしていただいた皆様方のご尽力により、ほぼ例年通り事業ができました事、大変、感謝申し上げます。

被災地域におきましては、仮設住宅が整備され、また、被害があった学校の仮設校舎の整備なども進み、町の機能も徐々に回復しているかの報道がなされますが、現実には、がれきの処理、仕事などの日常生活の再建はなかなか進まず、先の見えない状況が今も続いております。

全国の皆様から寄せられました義援金の配分や用途につきましては、原則として各団体に直接配分させていただき、それぞれの団体の活動資金として活用させていただいております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 岩手県吹奏楽連盟が頂いた義援金（平成24年3月31日現在）

①全日本吹奏楽連盟から東北吹奏楽連盟に寄託された義援金のうち岩手県吹奏楽連盟に配分された義援金

25,268,412円

(6月7日 ¥7,800,000- 7月7日 ¥3,900,000- 9月6日 ¥4,800,000-

11月8日 ¥3,600,000- 12月27日 ¥2,168,380- 3月29日 ¥3,000,032)

全日本吹奏楽連盟に開設していただいた義援金の口座から、東北吹奏楽連盟に寄託された義援金の3割を岩手県吹奏楽連盟がいただきました（平成23年5月21日開催の東北吹奏楽連盟第1回理事会で、宮城、岩手、福島が5：3：2の割合で配分することを決定）。

②岩手県吹奏楽連盟に直接送金頂きました義援金

11,615,442円

2. 岩手県吹奏楽連盟が頂いた義援金の配分

頂きました義援金は被災地域の団体（久慈支部、宮古支部、釜石支部、気仙支部所属の52団体）に、活動支援金・大会参加補助金として配分させて頂きました。

①活動支援金（被災状況・部員数に応じて配分）14,566,000円

②大会参加補助金 3,990,000円

③楽器の支援に係わる修理・運送代など諸費用 300,000円

総額 18,856,000円

3. 今後の用途について

震災の爪痕、復興の状況を見ますと、被災地域の団体の活動環境は今後も厳しいことが想定されます。頂きました義援金の残金は、各団体への活動支援金・大会参加補助金として引き続き配分させていただく予定です。

●活動支援金の贈呈の様子

(第1次配分 平成23年6月14日(火))

岩手県立高田高等学校への贈呈

(避難先の旧大船渡農業高等学校校舎)



釜石市立釜石東中学校への贈呈

(避難先の釜石市立釜石中学校)



(第6次配分 平成23年12月23日)



釜石市民吹奏楽団への贈呈

(全日本アンサンブルコンテスト釜石支部大会会場となった
大槌町城山公園体育館にて)

●被災地の状況 (平成23年12月18日・23日撮影)



←宮古市田老町

(宮古市立田老第一中学校)

津波で校舎1階が浸水しました。現在はここで授業を行っています。手前の住宅(商店)などは、すべて流されました。生徒や付近住民は校舎裏手の山に逃げ、避難しました。



大槌町(中心街)→

(城山公園体育館から撮影)

堤防の向こう側には、まだ、がれきが残っています。奥の海から津波が襲い、写真に見えている建物はほぼ、すべて水没しました。町の中心地は地盤が沈下し水が引かない状態が続いています。震災後の風景とほとんど変わっていません。

全日本アンサンブルコンテスト岩手県大会釜石支部大会が行われました、城山公園体育館の駐車場から撮影しました。



←全日本アンサンブルコンテスト岩手県大会釜石支部大会(城山公園体育館)

12月23日に行われ、ほぼ例年通りの団体が出場しました。

会場は高台にあり、震災当日は多くの住民が避難し、7月中旬まで避難所として多くの方々がここで生活をしていました。